

教諭班グループ別研修

研究テーマ 「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫

～遊びの中にある資質・能力を読みとって～

教諭班は、各学年（複式学級は5歳児に含む）と預かり保育の4グループに分かれ、自己課題や持ち寄った教材研究の資料を基に、保育実践の紹介や情報交換をしたり、次回の研究方法について共通理解を図ったりした。助言の園長先生方にグループ協議で御助言をいただいたり、学年別全体会で資質向上につながる具体的な保育について御指導をいただいたりした。

<3歳児>

- ・教材研究について、3歳児は生活や遊び、全てがつながっているため、子供がイメージをもちやすいものや、興味や遊びの延長にある題材を選んでいくと良い。
- ・少人数クラスが増えていく中で、個々に合わせた援助や遊びができることは良さではあるが、関わる中で難しさも感じる。今後、課題点について、話し合いを深めていきたい。

●助言者御指導（抜粋）

- ・様々な教材を持ち寄ることで、教師の引き出しが増えたのではないか。自分のものになるように実践していけると良い。
- ・落ち着いて過ごせるようになってきた時期であるが、3歳は初めてのことばかりで不安を抱える子も多い。それを念頭に「幼稚園が楽しいな」と思える環境づくりが大切である。
- ・子供が生き生きと幼稚園に通うことが、保護者にとって安心と信頼に繋がる。保護者と普段から積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが大切である。
- ・「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫をするためには、保育にねらいをもち、願う姿を明確にすることが大切である。また、一人一人が楽しく遊ぶことができる環境を用意し、十分に楽しめるように教師が子供の思いに共感していくことが大切である。
- ・本日の研修では、とても熱心に協議に取り組む姿が見られた。第2回の協議でも、様々な教師の考えや保育に触れていけると良い。

<4歳児>

- ・発達に課題がある子や外国籍の子が増えており、保育の悩みや難しさを共有できた。また、援助や環境構成の仕方などを情報交換することで、今後の参考となった。
- ・教材研究では、製作を楽しむための工夫や、つくったものを遊びに活かす方法などを学び合い、新たな知識を得ることができた。

●助言者御指導（抜粋）

- ・市教研は意見を認め合う研修であって欲しい。様々な立場の先生の考えを聞き、自分を見つめ直したり、視野を広げたりして欲しい。
- ・子供の姿を読み取っていく中で、幼稚園教育要領を使って照らし合わせていくと良い。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」までのプロセスを大切に、子供の姿の読み取りを深めていくことで、必要な環境援助が見えてくる。また、このように研修で学ぶことで、意識して環境を出したり、援助したりしていくことができ、子供の育ちにつながっていく。
- ・「遊びはごちそう、学びは栄養」おいしいごちそうをいかにつくるかは、教師の腕。写真を活用し保育を振り返り、幼稚園教育要領や子供の発達などに関連付けたり意味付けたりすることで、保育の質の向上につながる。また、写真から、教師同士で感じたことなどを意見交換することで、子供の内面を読み取ったり、援助や環境の意味を考えたりし、教材観や子供観などを深めることができる。これこそが、保育の醍醐味である。

<5歳児>

- ・同じ題材の製作や絵画製作でも、素材や材料の選び方や技法によって表現が違ってくるため、勉強になった。また、教師自身が様々な素材の特徴を知っておくことが大切であり、教材研究を深めていきたい。
- ・各園での遊びや環境構成の工夫などを具体的に伝え合えたため、今後の保育に活かしたい。

<複式学級>

- ・年長児のねらいに合わせて遊びを展開する難しさを感じるため、各学年の目指す姿や、個々に合わせた育ちを見取することを大切にしていきたい。また、園児数が減り、全学年で活動することが増えたことで同じ場に複数の教師が援助に入ることが多くなってきた。それぞれの教師の思いを共通理解し、役割を担って保育することが大切である。

●助言者御指導（抜粋）

- ・単学級が増え、同じ学年の担任同士で話す機会が減ってきている。この研修を活用し、悩みを伝え合ったり、情報交換したりすることで、自分の問題解決に役立てると良い。
- ・今の時期の年長児は、様々なものに触れる機会をつくっていくことが大切である。素材や材料に触れることで面白さに気づき、試行錯誤する経験につながっていく。上手くいかない経験も、自分なりに試す経験をすることで、次の遊びにつながっていく。
- ・友達とつながりや関わりが強くなる経験をする 것도大切である。教師が一人一人の良さや頑張りを把握し、その子の良さを活かすことができるような遊びや活動を取り入れることで、自分が役に立っているという経験をする事ができると良い。
- ・複式・小規模園の保育では、各学年の発達を理解し、育てたい姿をおさえることが重要である。おさえをもつことで、環境の出し方や援助がぶれない。また、時には年長のみ活動時間をつくり、子供の様子に合わせた場面設定をすることも必要である。

<預かり保育グループ>

- ・製作活動には、利用時間に差があるため、子供たちの負担にならないよう手順を減らしたり、担任と連携し先行体験や復習体験を取り入れたりしている。
- ・家庭生活を経験する場でもあり、経験不足を補うために季節感を遊びに取り入れながら、家庭生活にもよい影響が見られるようにしていきたい。

●助言者御指導（抜粋）

○避難訓練

- ・預かりの時間中にも起こることがあることを予想し、職員が連携して対応できるようにしておくことが大切である。また、非常時に泣いてしまう子への対応や、迎えが来るまでに子供たちをどこで預かるかなど、決めておくとうい。

○発達支援と担任との連携（支援を要する子への対応）

- ・預かりの時間も安心安全に過ごすことが大切であるため、通常保育と連携をとることが必要である。支援計画から担任の思いを受け止めたり、通常保育に入り個々の特徴を把握したりし、担任と支援していく方向や困り感を共通理解していくとうい。

○安全管理

- ・熱中症や脱水にならないよう、水分補給ができていないか確認していく。
- ・安全に午睡ができていないか、寝方や呼吸などを確認していく。

